



熊本YMCA 活動レポート

Annual Report 2025-2026



熊本YMCAの使命

Our Mission

熊本YMCAは、熊本バンドの精神をうけつぎ、イエス・キリストによって示された愛と奉仕のわざに励み、青少年の精神・知性・身体の調和のとれた全人的成長を願い、すべての人々がひとつとなるための働きを行います。

1 共に生きる社会

人のいたみを感じ、互いに分かち合い、ともに生きる社会の実現に努めます。

2 地球環境の保全

人と自然がともに生きていける地球環境を大切にします。

3 生涯学習の推進

すべての人々が、出会いを通していつも学びながら成長できる場と機会を提供します。

4 ウェルネス活動

生涯にわたり心とからだの健康をつくり保持する活動を展開します。

5 ボランティア活動

地域や国際社会に貢献できるリーダーを育成し、ボランティア運動の輪をひろげます。

6 平和な世界

アジアの一員としてその歴史に学びつつ、世界の人々とともに平和で豊かな世界の形成に努めます。

世界YMCA Vision 2030



各地で頻発する紛争、気候変動、貧困問題など、世界規模の課題が山積する中で世界のYMCAは2022年夏、「世界YMCA Vision2030」を採択しました。下記の「4つの柱」で構成されるこのビジョンは、国連の持続可能な開発目標「SDGs」とも連動した行動目標で、YMCAのグローバル・ネットワークを活用し、世界の課題を解決していくことを目指しています。

4つの活動領域(運動を広げる4つの柱)



Community Wellbeing

コミュニティー ウェルビーイング



Meaningful Work

やりがいのある仕事と雇用環境の創造



Sustainable Planet

持続可能な地球のために



Just World

公正な世界の実現のために

はじめに

Message from The Kumamoto YMCA



会長 **吉本 貞一郎**

Teiichiro Yoshimoto
President



常議員会議長 **麻生 尚哉**

Naoya Aso
Chairperson of the Board of Directors



総主事 **伊藤 真太郎**

Shintaro Ito
General Secretary

会員の皆様におかれましては、平素より熊本YMCAの諸活動に対し、多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

熊本YMCAは戦後の混乱と絶望の中にあった1948年、青少年の全人的成長と世界平和への貢献を願い、設立されました。その精神の源流は、1844年のロンドンでのYMCA誕生や、1876年に熊本洋学校の学生たちが奉教を誓った「熊本バンド」にあります。2025年度は、その結盟から150年という節目の年を迎え、先人の志を次代へ繋ぐ決意を新たにす貴重な学びの時となりました。

今日、私たちは新たなテクノロジーによって利便性を享受する一方、深刻化するいじめや不登校など、当時とは異なる社会課題に直面しています。これに対し、私たちは社会がいじめを「自分事」として捉える「ピンクシャツデー」運動や、不登校児・生徒支援「ぶらっとほーむ」を通じ、一人ひとりに寄り添う活動を続けています。また、東日本大震災から15年、熊本地震から10年という歳月が流れました。これまでの災害支援活動を支えてくださった皆様に、深く感謝申し上げます。

現在、世界のYMCAは「Vision 2030」を掲げ、4つの重点領域（ウェルビーイング、有意義な仕事、持続可能な地球、公

正な世界）での行動を推進しています。熊本YMCAもまた、このビジョンを羅針盤とし、物価高などの経済不安や止まない戦火という厳しい情勢下にあっても、平和への願いを絶やさずことなく、すべての人にプログラムを届ける努力を続けてまいります。

2028年に控える創立80周年に向け、私たちはこれからも地域社会の課題に果敢に挑戦し続けます。会員、ボランティア、スタッフ、そしてすべての支援者の皆様が持つ「力」こそが、YMCAの本質です。今後とも変わらぬご伴走を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

社会的責任 Social Responsibility | International Exchange and Cooperation

国際交流・国際協力

海外YMCAとの国際協働

International YMCA Partnerships

みなみグローバルコミュニティセンターと熊本みなみワイズメンズクラブが中心となって2011年からミャンマーモガウンYMCAを支援しています。2025年度もチャリティ活動を行い、エイズ孤児、内戦による孤児のために支援金を寄付しました。また、2025年3月に発生したミャンマー地震を受け、4月30日(水)に日本YMCA同盟主催の緊急祈禱会がオンラインで開催されました。熊本からも会員らが参加し、在日ミャンマー人牧師の「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイによる福音書28章20節)のメッセージを分かち合い、祈りを届けました。



祈禱会で紹介されたミャンマー地震支援活動の様子

日韓交流

Japan - Korea Exchange

熊本YMCAと韓国大邱^{テグ}YMCAの交流は1960年代の高校生交流から始まり、現在もユースによる交流や職員研修、役員による交流などを続けています。また、熊本ワイズメンズクラブと共に熊本県立盲学校と大邱光明学校の交流を支援しています。



日韓青少年交流

「第37回日韓青少年交流プログラム」を熊本ワイズメンズクラブと共に実施しました。視覚に障がいのある日韓の青少年が、スポーツや文化交流を通じて、障がいや文化の違いを超えた国際交流をすることが目的で、8月5日(火)～8月8日(金)の4日間の日程で、熊本県立盲学校の生徒らが韓国大邱を訪問。大邱YMCAや特別支援を行っている大邱光明学校などで活動を行いました。大邱光明学校生とのスポーツ交流、K-POP体験、韓国料理体験などがあり、参加者は協力し合い、互いの文化を尊重して交流を深めました。

熊本YMCA・大邱YMCA役員協議会

31回目となる熊本YMCAと韓国大邱YMCAの役員協議会を10月25日(土)、韓国大邱YMCAで開催し、熊本から常議員、職員4名が参加しました。協議テーマは「日韓ユースボランティア活動交流の活性化」で、熊本YMCA総主事の伊藤真太郎さんが発題してユースを対象とする交流プログラムの実施を提案。ユースたちが相互に違いを受けとめ、平和について考える出発点を見つけること、それをきっかけに国際的なボランティア実践をし、平和な世界の実現に貢献する次世代リーダーへと成長するビジョンを示しました。大邱からの発題もなされ、分団討議、意見交換を行いました。

社会的責任 Social Responsibility | International Exchange and Cooperation

国際交流・国際協力

国際研修生受入プログラム

International Trainee Program

国際的な相互理解と青少年育成を目的とするYMCA交流プログラム「ICCPJ (International Camp Counselor Program Japan)」として、台湾から温庭(オンテイ)さんが来日。7月13日(日)～8月14日(木)、YMCA阿蘇キャンプを拠点に、子どもたちの活動支援や施設管理補助を経験したほか、3度のホームステイを通して、異文化交流を行いました。

台湾・彰化YMCAボランティアツアー

Volunteer Exchange with Changhua YMCA

2026年1月26日(月)～31日(土)、台湾の彰化YMCAから学生5名とスタッフ2名の一行を迎え、ボランティアツアーを実施しました。2016年に発生した熊本地震後から続くプログラムで、YMCA阿蘇キャンプを拠点に、滞在前半の農業体験では、厳しい寒さの中でビニールハウスの撤去や建築作業を行いました。また、YMCA赤水保育園を訪問し、園児たちと歌やダンス、台湾文化の紹介や英語を通じた交流を行いました。



スタディツアー シンガポール&マレーシア

Study Tour: Singapore & Malaysia

小学3年生から中学3年生を対象とした海外体験プログラム「シンガポール&マレーシアスタディツアー」が7月27日(日)～8月3日(日)の7泊8日で実施され、熊本から7名が参加しました。現地YMCAとの交流、異文化体験、英語でのコミュニケーションなどを通して、子どもたちの自立心、国際感覚、協調性を育みました。



インターナショナル・ユースピースセミナー

International Youth Peace Seminar

8月5日(火)～8月9日(土)に行われた広島YMCAが主催するインターナショナル・ユースピースセミナーに熊本から5名が参加しました。日本、インド、中国、台湾、韓国など国内外のYMCAから約50人が広島に集い、被爆者証言や原爆資料館の見学を通して核兵器の脅威を学びました。ワークショップでは、参加者がスマートフォンの翻訳機能などを駆使しながら語り合う姿が見られました。



アジア太平洋地域ユースコンボケーション

Asia Pacific Area Youth Convocation

ワイズメンズクラブ国際協会によるアジア太平洋地域ユースコンボケーション(AYC) 2025 Kumamotoが、7月30日(水)～8月3日(日)にYMCA阿蘇キャンプで開催されました。18歳から35歳までのユースが国境を越えて集い、「私たちユース世代が未来に向けてできること」を考え、実行へつなぐ場として、日本、台湾、スリランカ、タイ、ケニアからユース計29名が参加。熊本YMCAからは3名が参加しました。「個人の平和」をテーマにグループディスカッションを行い、各国の若者が自分の考えや想いを共有し、平和に向けて各自ができる具体的なアクションプランを考えました。

社会的責任 Social Responsibility | Community Services

地域活動・ボランティア活動

YMCAインターナショナル・チャリティーラン

YMCA International Charity Run

障がいのある子どもたちを支援するとともに、障がいへの社会的な理解と関心を高めることを目的として全国のYMCAで開催されるYMCAインターナショナル・チャリティーラン。11月16日(日)に第10回となる熊本大会を開催しました。益城町総合運動公園を会場に、全国大会委員長である富田宇宙さんをはじめ、競技参加者、ボランティア等約650名が来場し、未就学の子どもたちによる400m走で開幕。YMCA水前寺幼稚園の年長児のマラソン大会、個人ラン、熊本YMCA学院のクラス対抗リレー、5名がタスキをつなぐグループラン、家族で楽しむファミリーランを実施し、自由参加のファイナルランで締めくくりました。



むさしグローバルコミュニティセンター 開設30周年記念

30th Anniversary of Musashi Global Community Center

1995年に「むさし台センター」として設立したむさしグローバルコミュニティセンターの開設30周年を記念し、11月8日(土)に式典を開催しました。第1部礼拝では、希望ヶ丘キリスト教会の牧師の本堀秀一さんが「主がここまで」のテーマで奨励。第2部式典では、熊本むさしワイズメンズクラブ会長の高本二郎さんから祝辞が述べられました。また、これまでの長きにわたり、むさしグローバルコミュニティセンターを支えた団体・個人への感謝状を贈呈しました。第3部の茶話会では、ダンスクラスによるダンスやミニコンサートが行われたほか、写真を通してこの地での30年の歴史を振り返りました。

熊本YMCA定時会員大会

The General Meeting

5月23日(金)、2025年度熊本YMCA定時会員大会を開催しました。熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンターを本会場とし、サテライト会場としてYMCA阿蘇キャンプをオンラインでつなぎました。両会場あわせて、131名の会員が参加。第1部礼拝に続く第2部表彰式では、表彰者を代表して50年表彰の堤弘雄さんから挨拶がなされました。第3部報告会では、ボランティア会員の代表である常議員の改選に伴い、常議員の紹介がなされ、会場から拍手が送られました。第4部のグループディスカッションでは、グループに分かれ、「～共有・共感・共同～ YMCAの仲間(会員)を増やすために私たちができること」をテーマに意見交換を行いました。



堤弘雄さんによる表彰者代表挨拶

社会的責任 Social Responsibility | Community Services

地域活動・ボランティア活動



ポニーキャンプ

A Camp for Children with Visual Impairments

7月24日(木)～25日(金)、第49回ポニーキャンプを熊本ワイズメンズクラブとの共催で開催。新しい挑戦を通して視覚に障がいのある子どもたちの自信につなげることなどが目的で、天草を会場に熊本県立盲学校の児童、生徒5名らが参加しました。キャンプ中は熊本YMCA学院の学生リーダーが子どもたちをサポートし、ヨット体験やパン作り、クラフトを行いました。パン作りでは初めて触る発酵したパン生地の手触りに子どもたちが驚く様子が見られ、クラフトでは個性あふれる貝殻ストラップが完成しました。

ピンクシャツデー

Pink Shirt Day

2007年、カナダの男子学生がピンクのシャツを着ていじめに遭ったことを発端に、世界各地に広まったいじめ反対運動「ピンクシャツデー」。YMCAも全国各地の拠点で毎年取り組んでいます。熊本YMCAでは2026年ピンクシャツデーである2026年2月25日(水)を含む1週間をピンクシャツウィークとし、プログラムに通う子どもたちなどがピンクの服や小物を身につけて、いじめや差別について考える機会を持ちました。

中学・高校生の学びと居場所づくりプログラム

Learning and Safe Space Programs for Youth

高校生を対象とした居場所づくりの活動として「もらいろ」が東部グローバルコミュニティプラザでスタートしました。「もらいろ」という名前は「モラトリアム」×「自分の色」を掛け合わせたもの。生きづらさを抱え苦しんでいる高校生が自分の色をさがす場所となることを目指し、ユースボランティアリーダーが中心となって活動しています。

また、熊本YMCA学院では独立行政法人福祉医療機構のWAM助成事業として、中学生、高校生を対象にした学習教室「放課後ベース熊本」を開設。すべての子どもたちに学びの場、居場所を提供することが目的でNPO法人BORDER FREEの協力のもと、大学生・専門学校生らが参加者をサポートしています。2026年3月22日(日)には、「中高生のリアルな声を聞き、学習サポートの在り方を考える意見交換会」を



開催。放課後ベース熊本に参加し、自ら学習をしながら中学生の学習サポートを行う高校生たちが、自らの経験や想いを語ったほか、熊本市教育委員会教育長の遠藤洋路さんらを迎えて「今必要な第三の居場所とは。高校生の声から考えるサポートの形」をテーマにクロストークが行われました。



「中高生のリアルな声を聞き、学習サポートの在り方を考える意見交換会」の様子

社会的責任 Social Responsibility | Community Services

地域活動・ボランティア活動



全国YMCAリーダー研修会に参加

National YMCA Leadership Training

10月11日(土)～10月13日(月)の3日間、徳島県のYMCA阿南国際海洋センターで開催された第56回全国YMCAリーダー研修会に熊本からコースリーダー3名、職員1名が参加しました。2025年度の研修のテーマは「Set Sail ～心に帆を揚げて～」。

全国から約90名のリーダーが集い、「Well-being(=幸せな状態が維持されていること)」をキーワードにグループワーク等行いました。参加したコースたちが積極的に学び合う姿が見られ、よりよく生きるためには何が必要かを考える時間となりました。

YMCAフィランソロピー協会

Philanthropy

「よろこびあえる未来」を実現することを目指して、県内の企業が共に社会貢献に取り組むYMCAフィランソロピー協会が年間を通した活動を行いました。

おしごとカフェ

8月6日(水)、児童養護施設で暮らす子どもたちの「職業観」「仕事観」を深めることを目的に第8回「おしごとカフェ」を熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンターで開催しました。5つの児童養護施設から引率を含め、約40名が参加。6つの企業・団がおしごと説明のブースを設けました。パネルや動画を用いた説明が行われたほか、福田病院による赤ちゃんの人形を用いた「新生児のお世話体験」など、工夫を凝らしたブースが展開されました。



すべての人が輝ける職場づくり交流会

2026年2月4日(水)、熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンターを会場に「すべての人が輝ける職場づくり交流会」を開催しました。海外企業の進出など、熊本の企業を取り巻く環境が変化中、外国籍人材と企業の相互理解を深めることが目的で、協会会員企業や留学生、一般参加者など29名が参加しました。はじめに外国籍人材、企業・団体、教育機関の三方の立場から4名が現状や思い、今後の希望についてトークセッションを行いました。その後のグループディスカッションでは、4つのグループに分かれて参加者それぞれの立場での考えや将来の展望を共有し、交流を深めました。



共に生きる社会 Building a Society Where We Live Together

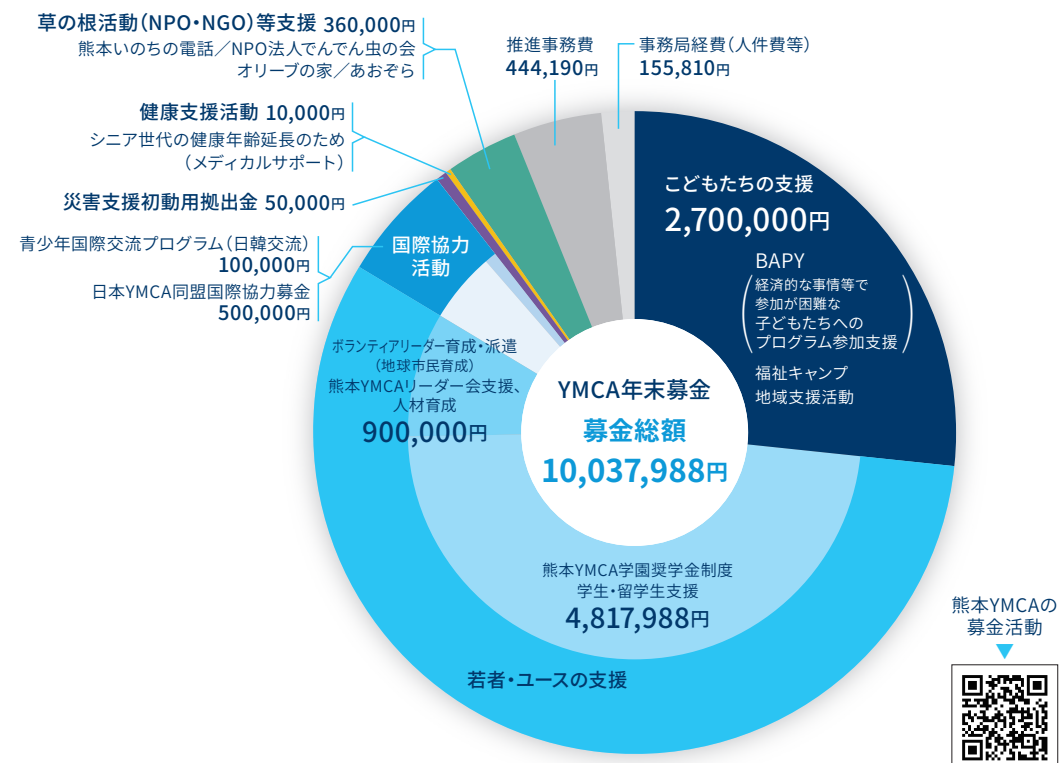
募金活動

希望のある豊かな社会づくりを目指して ～ポジティブネットのある社会へ～

YMCA年末募金

Fundraising Campaign

熊本YMCAは「子ども・若者・国際協力」をテーマに、毎年、年末募金に取り組んでいます。各拠点で募金を呼び掛けたほか、街頭募金、チャリティプログラムなどを行い、2025年11月1日から2026年1月31日まで取り組んだ2025年度は10,037,988円の募金が寄せられました。



チャリティ祭「サザンフェスタ」を手伝う子どもたち



1月に行った街頭募金活動

寄付者の声

私は社員に「美しい心でありなさい」と伝えています。一流の仕事人は一流の心を持っていないわけがありません。相手のここを満足させることができこそ、一流の技術者だと思っています。そのような考えもあり、少しでも社会に協力したいという想いで、毎年、YMCAの年末募金に協力しています。募金は経済的な課題を持つ熊本YMCA学院の学生支援にも使われているそうですね。私は教育が何より大切だと思っており、YMCAの取り組みに共感しています。当社には多くのYMCA学院建築科の卒業生が在籍しています。「学費が払えないから学校にいけない」という若者をつくらないように、この募金が役立ってほしいと願っています。



株式会社吉永産業 代表取締役社長
吉永 隆夫さん

共に生きる社会 Building a Society Where We Live Together

減免実績

■ BAPY基金(通年プログラム)

事業部門	件数	助成額(円)
ウエルネス	36	1,378,560
野外教育	1	43,630
こども英会話	6	215,710
カルチャー	2	43,680
ぶらっとほーむ	4	531,260
合計	49	2,212,840

■ BAPY基金(春・夏・冬休み期間中プログラム)

事業部門	件数	助成額(円)
ウエルネス	6	25,450
野外教育	12	152,630
えいごキャンプ	1	12,000
アフタースクール	4	48,600
合計	23	238,680

■ 奨学金・進学支援

事業部門	件数	助成額(円)
熊本YMCA学院(特別奨学金・留学生進学支援)	15	4,910,000
合計	15	4,910,000



国際コーススペースセミナー

■ 地球市民育成(ランゲージスクール学生受講料減免)

事業部門	件数	助成額(円)
グローバル	6	360,180
熊本YMCA学院 学生語学奨学生	11	433,600
合計	17	793,780

■ 地球市民育成 助成

プログラム	件数	助成額(円)
春季三水会地区研修	1	24,884
国際コーススペースセミナー	5	469,800
秋季三水会地区研修	2	53,006
全国YMCAリーダー研修会	3	184,104
English Camp for Global Leadership	7	554,575
合計	18	1,286,369

熊本YMCA学院 特別奨学制度



熊本YMCA学院
こども保育科2年生
熊島 斗希さん

支えられてきた私がこれからできること

幼い頃に児童養護施設で生活していた私にとって、施設の先生方は「家族」のような存在でした。その姿を見て、子どもたちに安心できる居場所をつくることができる人になりたいと思い、保育士を目指すようになりました。進学にあたり経済的な課題を感じる中で出会ったのが、YMCA学院の奨学生制度です。支えてくださる方々の想いがあるからこそ、私は勉強を続けることができます。この感謝を子どもたちや周りの人に返していけるよう努力していきたいと思っています。

地球市民育成助成



熊本YMCA学院
建築科1年
長谷 宇隆さん

小さな一歩が平和につながる

広島で開催された国際コーススペースセミナーに参加しました。以前は、「平和」って壮大なもので、一人では何も変わらないと思っていました。セミナーに参加して、「小さなところからも平和をつくることができる、一人のアクションが平和につながる」と感じました。海外からの参加者との交流やワークショップでは言語の壁に苦労しました。人と人との架け橋になるために、壁を乗り越えられるよう行動していきたいです。私たち若者たちのために募金が用いられ、このような研修に参加できることをありがたく思っています。

共に生きる社会 Building a Society Where We Live Together

BAPY基金 (参加費減免制度)

“BE A PARTNER OF THE YOUTH”

公益財団法人熊本YMCAはすべての子どもたちがYMCAのプログラムに参加できるように、BAPY基金 (参加費減免制度) を設けています。ひとり親世帯や、特別児童扶養手当受給世帯等、YMCAのプログラムに経済的理由により参加できない子どもたちに対して、費用の一部または全額を減免します。



BAPY基金利用者の声



こども英会話スクール
元在籍生

西口 夏海さん

私は高校生の頃まで、BAPY基金を利用してYMCAの英会話スクールに通ってました。高校卒業後は大学の英米学科に進学してオーストラリアへの留学も経験。大学を卒業し、2025年の4月から熊本市内のIT企業で仕事をしています。

YMCAとの出会いは体育英語幼稚園 (現ぶどうの木体育英語幼稚園)。幼い頃から園で楽しく英語にふれ、卒園後も英会話を続けました。高校時代には英語を学ぶ中高生が全国のYMCAから集まる「English Camp for Global Leadership (ECGL)」や世界のコースが共に平和について考える「広島YMCAインターナショナル・ユースピースセミナー」にも参加。県外にも友だちができて、今でも連絡を取り合ったり、会いに行ったりしています。この二つのプログラムも募金による参加費補助があったので参加することができました。

また、子どもたちの英語プログラムにコースリーダーとして参加してサポートしたり、YMCAでいろいろな人と関わったりした経験がコミュニケーション力につながり、社会人となった今も役立っています。

就職活動の際に今の会社を選んだ理由の一つは海外事業部があるということ。社内に「グローバルコミュニティ」という活動があり、英語に興味のある社員や海外に赴任している社員とオンラインで交流しています。将来は海外で仕事をしたいです。留学を通して日本のすばらしさ、暮らしやすさを実感しました。だからこそ、荒波にもまれる気持ちで挑戦して、自分の視野を広げたいと思っています。募金による支援があったから、YMCAで様々なチャレンジができて、今の自分があります。YMCAで自分の好きなことを見つけられて本当によかったです。

事業報告 Business Report | Public Interest Incorporated Foundation

生涯学習 公益財団法人 熊本YMCA

ウエルネス事業部はこどもスポーツスクールや成人フィットネスを展開。子どもたちを水の事故から守る「ウォーターセーフティー（水上安全）キャンペーン」にも取り組みました。また、野外活動クラブは「Outdoor Club」に名前を改め、年間を通した野外活動を行いました。

グローバル事業部はこども英会話スクールと大人のための語学教室「英会話と世界のことば」を展開し、全国の中学生・高校生が参加するECGL (English Camp for Global Leadership) に熊本から6名が参加しました。

ぶどうの木体育英語幼稚園では、体育と英語に特化した園として子どもたち一人ひとりのすばらしい可能性を育むプログラムを実施しました。

YMCA阿蘇キャンプでは中高生がキャンプ場に長期間滞在して自然体験やキャンプ運営補助を行う「阿蘇留学」を初実施。また、東部グローバルコミュニティプラザで活動を続ける不登校児・生徒支援「ぶらっとほーむ」が主体となり「ぶらっとキャンプ」を実施するなど、多彩なプログラムを展開しました。

プログラム参加者(2026年3月時点)

部門\拠点	本館	みなみ	ながみねファミリー	むさし	東部	合計
こどもスポーツスクール	21	941	1,169	506	—	2,637
成人ウエルネス	—	514	199	—	—	713
野外教育	78	—	—	—	—	78
こども英会話	77	178	93	74	—	422
おとなの英会話と世界のことば	94	5	—	8	—	107
発達障がい支援	—	12	17	—	—	29
アフタースクール等	—	4	38	—	23	65
チャイルドケア	—	49	—	—	—	49
	270	1,703	1,516	588	23	4,100



ウォーターセーフティーキャンペーンでは、着衣泳体験を実施した他、小学校の児童を招いて水泳指導を行う「みんな泳げる25m運動」にも取り組んだ



Outdoor Clubは5月にこども文化会館で発会式を実施。その後、YMCA阿蘇キャンプに移動して活動を行った



ぶどうの木体育英語幼稚園では、近年、年中・年長児が取り組んでいたステートに2・3歳児も挑戦した



11月9日(日)に福岡YMCAとの合同で開催したサッカーフェスティバル



ECGLでは中高生たちがグループプレゼンテーションや個人スピーチに取り組んだ



ぶらっとキャンプでは、キャンプを通じた自己肯定感、自己効力感、自然への関心向上を目指した

事業報告 Business Report | Incorporated Educational Institution

教育 学校法人 熊本YMCA学園

熊本YMCA学院本科では「専門教育」、「キャリア教育」、「人間教育」の3つの教育方針のもと、建築科、ホテル観光科、医療秘書科、健康スポーツ科、こども保育科の5学科で学生たちが学びました。日本語科には10月時点で11カ国の留学生が所属しました。通信制の社会福祉学科と精神保健福祉学科では社会人らが福祉専門職の資格取得を目指し、社会福祉士85.4%、精神保健福祉士92.5%という高い国家試験合格率を達成しました。

YMCA水前寺幼稚園とYMCA熊本五福幼稚園は園内外の様々な行事を通して子どもたちが成長。また、放課後等デイサービス「YMCA自由なイルカたち」、児童発達支援事業所「YMCAりとするてっぶ」では子どもたちの療育に取り組みました。

在籍者(2026年3月時点)

部門\拠点	本館	水前寺幼稚園	熊本五福幼稚園	合計
幼稚園	—	70	67	137
幼稚園(収益プログラム)	—	31	12	43
専門学校(全日制)	161	—	—	161
日本語学校	101	—	—	101
専門学校(通信制)	99	—	—	99
アスリートクラブ	46	—	—	46
学研教室	17	—	3	20
放課後等デイサービス	23	—	—	23
児童発達支援	—	—	22	22
合計	447	101	104	652



熊本YMCA学院ホテル観光科は卒業発表として、観光マップを制作。ホテル熊本テルサで発表会を行った



熊本YMCA学院通信制のホームカミングデー2025では、「学校でソーシャルワークをするということ」をテーマに講演会を開催した



YMCA水前寺幼稚園は2月に「春を待つよいこの集い」を開催。子どもたちが歌やダンスを披露した



熊本YMCA学院こども保育科は2026年2月に卒業発表会を行い、子どもたちの前で劇やリズム遊びなどを行った



熊本YMCA学院日本語科スピーチ大会では予選を勝ち抜いた10名が様々なテーマで発表をした



YMCA熊本五福幼稚園では卒園児小学1年～3年生を対象としたプログラム「ドキドキワクワク秘密の4日間」を実施した

事業報告 Business Report | Social Welfare Service Corporation, Limited Company

福祉 社会福祉法人 熊本YMCA福祉会

阿蘇市の尾ヶ石保育園、赤水保育園、永草保育園、黒川保育園では各園での保育のほか、あそまつりや街頭募金活動など様々な活動を行いました。



4保育園合同であそまつりを開催。子どもたちがダンスなどを発表した



赤水保育園では卒園を前に大観峰へ。自分たちが住む阿蘇の自然のすばらしさを再確認した

在園児(2026年3月時点)

部門\拠点	尾ヶ石 保育園	赤 水 保育園	永 草 保育園	黒 川 保育園	合 計
保育園	13	54	29	59	155
合 計	13	54	29	59	155



各園で運動会を開催した。写真は黒川保育園の様子



永草保育園では卒園のお祝いとして、阿蘇うま牧場から招待を受け、4名の年長児が乗馬体験した

有限会社ユース・コーポレーション

旅行業、物品販売を行う有限会社ユース・コーポレーションは熊本YMCAで行うキャンプの企画・実施、会員対象のユニフォーム販売を行うほか、5回のファミリーツアーなどの企画ツアーも実施しました。



耶馬溪ファミリーサイクリングツアー 2025に大人3名、子ども6名の合計9名が「メイプル耶馬サイクリングロード」でのサイクリングを楽しんだ



天草の湯島を会場に7月に実施した「ぼくのなつやすみ2」では海水浴、スノーケリング、魚釣り、魚の麗仕掛け、島内探検など、たくさんの思い出をつくった

活動実績

Year in Review 2025-2026

2025年	4月2・3日	YMCAフィランソロピー協会主催「みんなのボランティア入門講座」を開催
	5月	中高生を対象とする放課後学習教室「放課後ベース熊本」が熊本YMCA学院でスタート
	5月	高校生の居場所づくり「もらいろ」が東部グローバルコミュニティプラザでスタート
	5月23日	熊本YMCA定時会員大会を開催
	6月	近隣小学校の児童延べ103名をYMCAのプールへ招待し、特別プログラム「みんな泳げる25m運動」を実施
	6月 1日	熊本YMCAオールリーダー入会式を開催
	6月13日	YMCAフィランソロピー協会主催「第20回チャリティボウリング大会」を開催
	7月11日	YMCAフィランソロピー協会主催フィランソロピーセミナー「外国籍人材との共創が導く持続可能な組織」と企業交流会を開催
	7月24～25日	熊本県立盲学校の児童・生徒を対象に「第49回ボニーキャンプ」を実施
	8月	中高生がYMCA阿蘇キャンプに長期滞在して自然体験やキャンプ運営の補助を行う「阿蘇留学」を初めて実施
	8月 5～8日	視覚に障がいを持つ青少年に国際交流の場を提供する第37回日韓青少年交流プログラムを実施
	8月 5～9日	広島YMCA主催「インターナショナル・ユーススペースセミナー」に熊本YMCA学院の学生やユースボランティアリーダーら5名が参加
	8月 6日	YMCAフィランソロピー協会が児童養護施設の子どもの仕事の観や職業観を育むことを目的に「おしごとカフェ」を開催
	8月24～28日	キャンプを通じた自己肯定感、自己効力感、自然への関心向上を目指した「ぶらっとキャンプ～ぼくらの夏休み編～」を実施
	9月 9日	熊本YMCA学院日本語科がスピーチ大会を開催
	10月10日	YMCAフィランソロピー協会 年次総会、創立30周年記念セミナー、異業種交流会を実施
	10月19日	スイミングフェスティバル2025を開催
	10月25日	第31回熊本YMCA大邱YMCA役員協議会を実施
	11月 1日	2025年度YMCA年末募金をスタート
	11月 8日	むさしグローバルコミュニティセンター開設30周年記念式典を開催
	11月 9日	第42回サッカーフェスティバルを開催
	11月15日	熊本YWCA・YMCA合同祈祷会を開催
	11月16日	第10回熊本YMCAインターナショナル・チャリティーランを実施
	12月 6日	熊本YMCAが事務局を務める市民クリスマス2025実行委員会主催のチャリティコンサートを実施
	12月26～28日	全国の中高生が参加するEnglish Camp for Global Leadership (ECGL) に熊本YMCAから6名が参加
2026年	1月25日	第39回ジュニア体操フェスティバルを開催
	1月26～31日	台湾の彰化YMCAから学生5名とスタッフ2名の一行を迎え、ボランティアツアーを実施
	1月30日	熊本YMCAが事務局を務める実行委員会が主催する熊本バンド結盟150周年記念早天祈祷会を開催
	2月 4日	YMCAフィランソロピー協会が「すべての人が輝ける職場づくり交流会」を実施
	2月27日	YMCA年末募金の感謝会を開催
	3月 6日	熊本YMCA学院日本語科が学習成果発表会を開催
	3月 8日	第10回ダンスフェスティバルを開催
	3月20日	熊本YMCAが事務局を務める実行委員会が主催する熊本バンド結盟150周年記念特別講演会・茶話会を開催
	3月22日	放課後ベース熊本の活動報告を兼ねた「中高生のリアルな声を聞き、学習サポートの在り方を考える意見交換会」を開催

熊本YMCA HP・SNS

Homepage and SNS QR Code

熊本YMCA
ホームページ熊本YMCA
LINE熊本YMCA
YouTube熊本YMCA
Facebookウエルネス
Instagramグローバル
Instagram野外教育
Instagram阿蘇キャンプ
FacebookYMCA学院
InstagramYMCA学院日本語科
Facebookぶらっとほーむ
Instagram熊本YMCAオールリーダー会
Instagram

YMCAについて About The YMCA

YMCAとは

YMCAとは、Young Men's Christian Associationの略称で、キリスト教を基盤とする非営利公益団体です。1844年、産業革命下のイギリス・ロンドンで、同世代の仲間たちの人格的成長や生活改善を願うジョージ・ウィリアムズ（1821～1905）ら12人の青年たちによって組織されました。

現在は世界120の国と地域で、およそ6500万人がYMCAの活動に関わり、日本国内では「みつかるとつながる。よくなっていく。」をスローガンに、地域や人々のニーズに合わせた多様なプログラムを提供しています。

YMCA正章



「SPIRIT」(精神)、「MIND」(知性)、「BODY」(身体)は、全人的な人間の育成を目指すことを表し、「X(カイ)」と「P(ロウ)」は「救い主キリスト」を表しています。中央には新約聖書ヨハネによる福音書17章21節「すべての人をひとつにしてください」が示されています。

YMCAブランドロゴ



鳥が飛び立とうとする瞬間の姿を、アルファベットのYが想起される形に重ねあわせています。右上の赤い逆三角形には、YMCA正章に記された「全人」の精神と、YMCAが約束するブランド価値「みつかるとつながる。よくなる。」の両方が込められています。

YMCAブランドスローガン

みつかるとつながる。よくなっていく。

ブランドスローガンには出会いとつながりから生まれる「よくなる」チカラが連鎖して、一人ひとりが、そして地域が、社会が「よくなっていく」、そのような願いをこめています。

YMCAの活動領域

子どもの成長に寄り添う 子育てと子育て

1

保育やアフタースクール、ウエルネスや語学教育といった体験や出会いの場と機会を通して子どもたちの成長に寄り添っています。



若者の力を信じる

ユースエンパワーメント

2

幅広い分野の学校や学習の場、ボランティア活動を通して、若者の人間力を育み、その成長を力強く支援しています。



健やかな生活を支える

生活クオリティの向上

3

健康寿命の延伸や知的好奇心の追求を共にし、社会とつながる機会を提供することで人々のいきいきとした健やかな生活を支えます。



社会貢献の地域基盤となる

社会に貢献

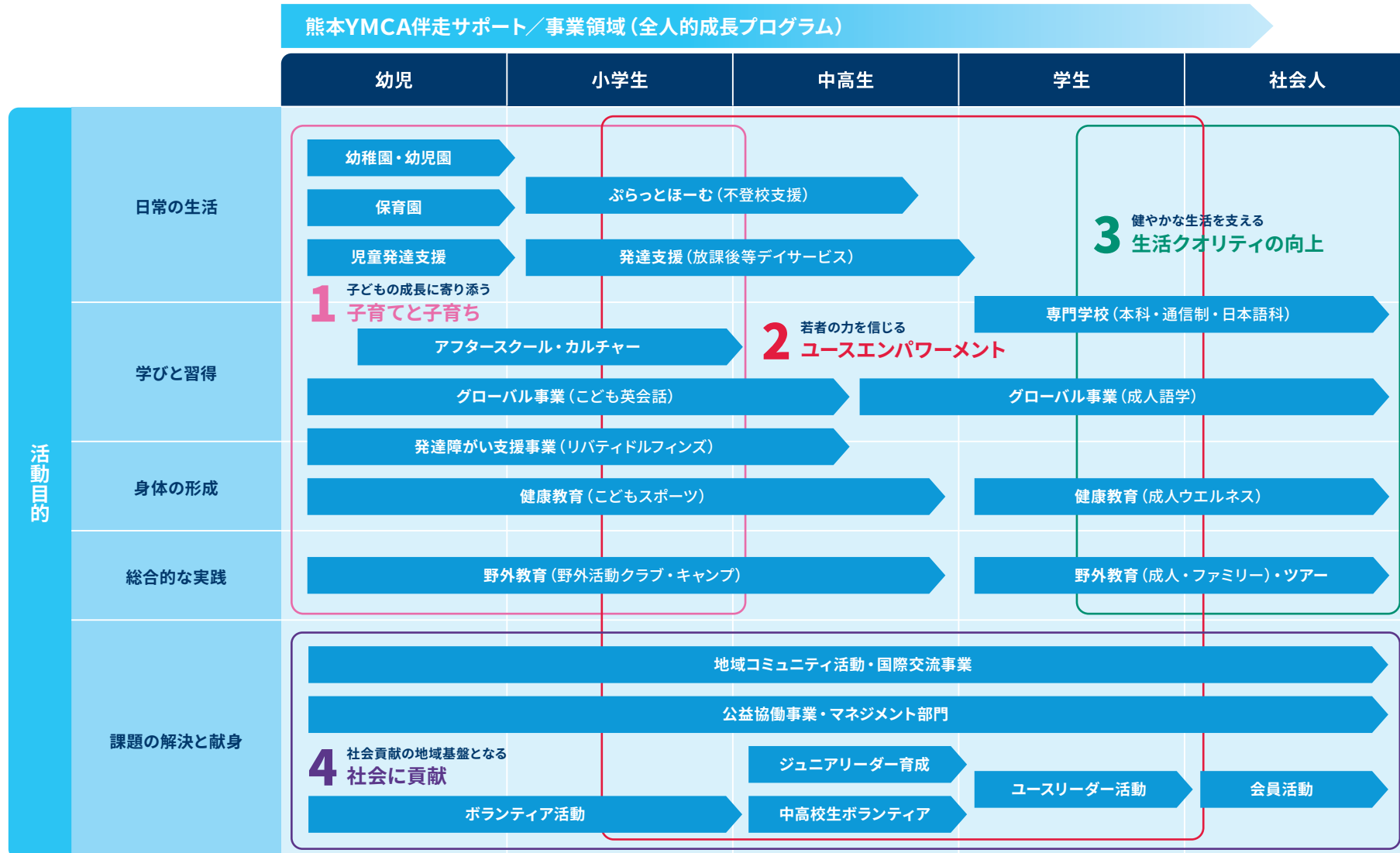
4

災害支援やいじめ防止アクション、チャリティー活動など、日本と世界に広がるネットワークを活かして社会貢献の輪を広げています。



一人ひとりの成長に寄り添うYMCAの取り組み

熊本YMCAでは、子どもから大人まで一人ひとりの成長を大切にしながら、4つの領域と5つの目的に基づき、多様なプログラムを展開しています。



概況・統計 Statistics and Association Overview

創立 Founding

世界YMCA	日本YMCA	熊本YMCA
182年	146年	78年
(1844-2026年)	(1880-2026年)	(1948-2026年)

世界のYMCA YMCAs around the world

120の国と地域

世界の会員数
約**6,500**万人

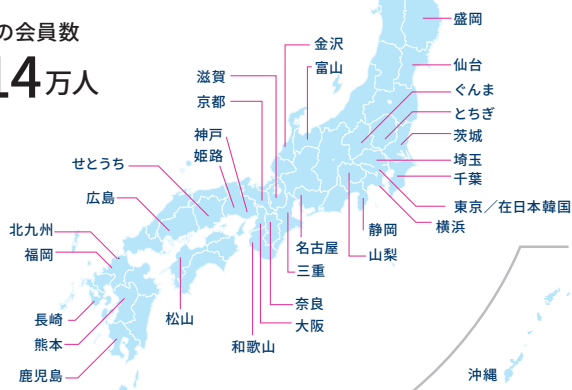
加盟 Affiliated

日本YMCA同盟(東京)
アジア・太平洋YMCA同盟(香港)
世界YMCA同盟(ジュネーブ)

日本のYMCA YMCAs in Japan

全国**34**都市

日本の会員数
約**14**万人

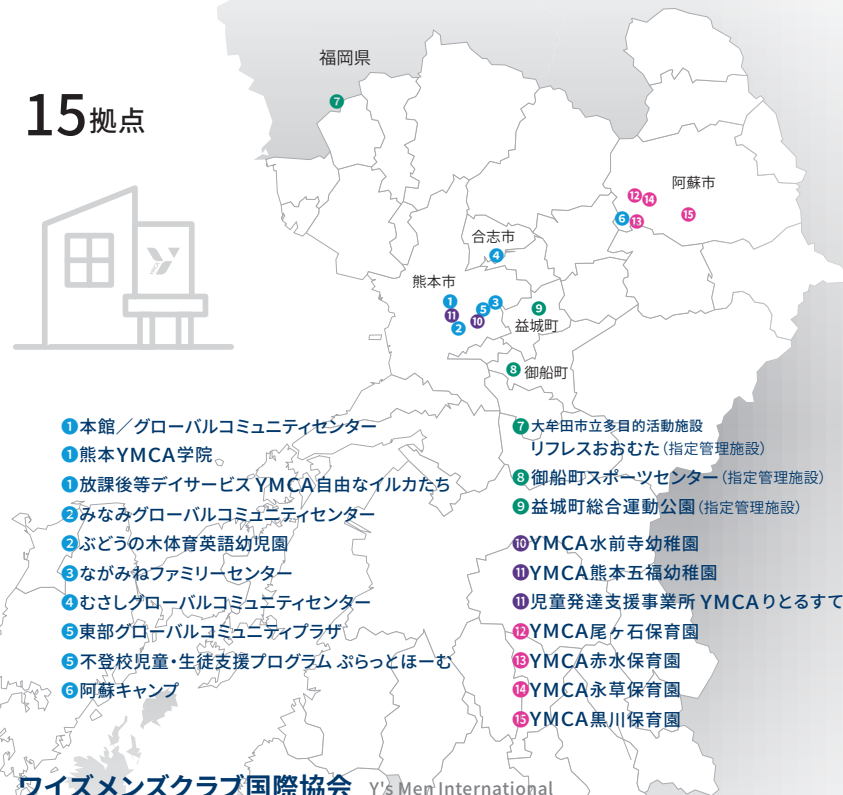


熊本YMCA The Kumamoto YMCA

維持会員	プログラム会員 園児・学生等	スタッフ数
742名	延べ 4,907名	215名



15拠点



ワイズメンズクラブ国際協会 Y's Men International

熊本ワイズメンズクラブ	19名	熊本ひがしワイズメンズクラブ	14名
熊本ジェーンズワイズメンズクラブ	29名	阿蘇ワイズメンズクラブ	15名
八代ワイズメンズクラブ	10名	熊本にしワイズメンズクラブ	20名
熊本むさしワイズメンズクラブ	17名	熊本Nスピリットワイズメンズクラブ	17名
熊本みなみワイズメンズクラブ	27名	熊本水前寺ワイズメンズクラブ	10名

ワイズメンズクラブ国際協会: YMCAの支援や協働を行う世界規模の奉仕団体です。インターナショナル・チャリティエーションをはじめ、災害支援、募金活動でYMCAと地域を支えています。

熊本YMCA役員・委員報告

Board and Committee Members

◎委員長 ○副委員長 ◇担当職員

熊本YMCA常議員

麻生 尚哉	伊藤 七海	内村 忠生	小川 祐一郎	小泉 嗣
田北 康一郎	堤 泰之	中村 英之	中村 陽志	西 章男
林田 博文	日野 充裕	福嶋 義信	藤田 香織	北條 将人
本田 節子	本堀 秀一	前田 香代子	松田 誠一	眞西 優治
三上 充	水元 裕二	森 博之	森 律子	森嶋 道
両角 彰則	山本 明子	吉岡 久美	吉村 千恵	吉本 貞一郎

伊藤 真太郎

公益財団法人 熊本YMCA

理事長	伊藤 真太郎			
理事	大久 保和生	辻 健太郎	西 章男	三上 充
	森 律子	吉本 貞一郎		
監事	藤田 香織 北條 将人			
評議員	麻生 尚哉	中村 陽志	林田 博文	日野 充裕
	本田 節子	本堀 秀一	松田 誠一	眞西 優治
	森嶋 道	両角 彰則		

学校法人 熊本YMCA学園

理事長	伊藤 真太郎			
理事	内村 忠生	岡山 富士男	小川 祐一郎	前田 香代子
	吉本 貞一郎			
監事	森 博之 吉岡 久美			
評議員	上村 文美	牛嶋 加佐喜	尾道 一幸	小泉 嗣
	須藤 史朗	田北 康一郎	堤 泰之	中村 英之
	水元 裕二	宮本 昌宣	山本 明子	吉田 しのぶ
	吉村 千恵			

社会福祉法人 熊本YMCA福祉会

理事長	伊藤 真太郎			
理事	高橋 壘	椎葉 朋子	岩下 裕一	二子石 真弓
	宮本 誠一	井野 孝文		
監事	桑本 ゆき 藤本 猪智郎			
評議員	五嶋 義行	西本 貴志	中島 正幸	橋本 朋子
	松村 由紀子	宮岡 光子	山口 貴生	脇 澄夫

本館/GCC運営委員会	◎西 章男	○北條 将人	○山本 明子	生駒 春美	岡田 茂美	小山 徹
	金澤 知徳	木山 彰子	林田 博文	福田 稠	村田 紀美子	守田 富男
	和田 修一	◇堀部 真紀				

みなみGCC運営委員会	◎麻生 尚哉	岩永 福子	内村 忠生	後藤 慶次	杉野 茂人	時任 幸四郎
	中村 陽志	藤元 俊輔	村上 博	米倉 容子	◇松本 光広	

ながみねFC運営委員会	◎本堀 秀一	○小川 祐一郎	石橋 綾	菅 正康	竹本 雄一	田上 裕章
	平山 俊生	古木 秀明	横田 博	◇丸目 陽子		

むさしGCC運営委員会	◎田北 康一郎	入佐 孝三	田上 正	裴 東烈	福嶋 義信	両角 彰則
	◇辻 健太郎					

東部GCP運営委員会	◎三上 充	西田 晶子	日野 充裕	本田 節子	眞西 優治	◇堤 雄一郎
------------	-------	-------	-------	-------	-------	--------

阿蘇運営委員会	◎松田 誠一	上村 文美	内村 優	梅井 俊夫	五嶋 義行	篠崎 泰子
	竹原 恵朗	藤本 猪智郎	藤本 義隆	松岡 省吾	松村 浩市	武藤 興紀
	◇高橋 壘					

幼稚園運営委員会	◎水元 裕二	伊藤 七海	岩本 悟	上野 美恵子	小泉 嗣	白木 尚登
	東 菜保子	三上 充	山下 和美	◇岡山 富士男		

学校運営委員会	◎吉岡 久美	有吉 亮	岩切 和子	上村 眞智子	堤 泰之	中村 英之
	平岡 英人	◇宮本 昌宣				

リソース推進委員会	◎森 博之	今村 秀夫	大崎 隆義	佐藤 通彦	田中 俊夫	藤田 香織
	森嶋 道	山田 芳之	◇時本 紀子			

ICR・メンバーシップ委員会	◎前田 香代子	岩本 守弘	佐藤 通彦	森 律子	吉松 裕藏	◇作本 達朗
----------------	---------	-------	-------	------	-------	--------

アドバイザー委員会	◎西 章男	田中 俊夫	藤田 香織	守田 富男	吉本 貞一郎
-----------	-------	-------	-------	-------	--------

2026年3月時点



みつかる。つながる。よくなっていく。